

## 報道関係各社御中

大阪府保険医協会は、新型コロナワクチンの供給減に関して、下記の要望書を菅義偉内閣総理大臣、河野太郎新型コロナウイルスワクチン接種担当大臣、田村憲久厚生労働大臣に送付いたしました。

### 新型コロナウイルスワクチン不足の早急な解消と 接種体制等の改善を求める緊急要請書

2021年7月9日  
大阪府保険医協会  
理事長 高本 英司

前略 新型コロナウイルスワクチン接種に向けたご尽力に敬意を表します。

さて、大阪府保険医協会の調査では多くの医療機関が、国や自治体の新型コロナワクチン接種に関する情報不足と度々の方針変更戸惑いながらも、日常診療を維持しながら、住民のワクチン接種に時間と人員を割いて接種を進めていることが明らかになっています。しかし、こうした中、医療機関にとってはまさに“寝耳に水”の事態が起こっています。

国は7月末までに高齢者の接種完了を掲げ、6月には一般の方の接種開始を大きくアピールしていたにも関わらず、7月に入って国から自治体に供給されるワクチンの量が大きく不足し、大阪府内の自治体でも予約を一時停止する事態となっています。ワクチンの供給を減らされた医療機関では、予約希望者への接種延期の連絡・調整等の管理に追われています。

大阪府保険医協会には「8月いっぱいまで予約が詰まっている…急に減らされて困っている」「キャンセルの連絡は簡単なことでない」「国から梯子を外された感じ」等、怒りと不安の声が寄せられています。また予約キャンセルになった方々が「やっと接種券が来たのに…」とがっかりする姿に心が痛むという声も寄せられています。

6月19日に開催された全国知事会の「9都道府県の緊急事態宣言の解除等を受けた緊急提言」には「ファイザー社製ワクチンの配分が7月以降急減する実情にあり、ワクチン接種を加速する流れに水を差すのではないかと懸念される」との文言があります。6月21日には多くの自治体が現役世代に接種券を送付し職域接種が進められていました。ワクチン不足の状況を国は把握していたのに、なぜ早く対策をとらず、“ワクチン接種に突き進め”と号令をかけたのか。

われわれはワクチン接種ができると期待していた国民に対して、今回の事態に至った説明責任を政府が果たすことを強く求めるとともに、地域においてワクチン接種に携わる保険医の団体として、個別接種を円滑に進めるために下記の点の改善を早急に行うよう、強く求めるものです。

#### 記

1. 政府は、ファイザー社製の新型コロナワクチン不足を早急に解消すること。
2. 当初の優先接種基準を基本とすること。基礎疾患を把握している開業医に対してワクチンの必要量を供給すること。
3. ワクチン接種の予約や事務的管理にかかる多大な負担にみあった接種料金にすること。
4. 自治体や医療機関を混乱させないためにも正確なワクチン供給スケジュールを示すこと。